

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2019年10月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

第30回 同朋ジュニア大会

蓮ちゃん通信 その①

2019年11月23日(土・祝)

子ども報恩講のつどい

「はじめての報恩講-東本願寺で子ども会-」

帰敬式が受式できます

会場/東本願寺(御影堂・阿弥陀堂・同朋会館)

お話し/楠 信生 氏(真宗大谷派教学研究所長)

レクリエーション/「音楽紙芝居 しんらんさま」
光善寺念仏一座(久留米教区)

参加対象/12歳までのお子さま、保護者・引率者

参加費/500円(精進カレーのお齋、記念品つき)

申込締切/11月1日(金)

※ただし、定員(200名)になり次第
締め切らせていただきます。

申込方法/青少幼年センター(☎075-354-3440)
へご連絡ください。



この言葉を初めて聞いたのは、同朋ジュニア大会にスタッフとして参加した時でした。
当時は、子どもと言わないんだな、というふうにしかなかった。そして、子どもたちとカレー杯遊んで、お世話をしたつもりになって疲れきったことに満足していました。
しかし、出会い、語り合い、お別れ、再会、を重ねるうちに仏道を歩む大切な仲間なのだ気づかされました。
一人の人間として向き合っていますか？
そう問われているような一言になってきました。
子どもたちに一方的に教えるのではなく、共に教えられていく場が子ども会なんだ、と気づかせていただきました。
「小さい人と共に歩む」私の大切な一言です。

小さい人と共に歩む

青少幼年スタッフ

崖 超 (きし ほんか)

いのちは誰のものか

名古屋教区
中村 薫



皆さんは、これまで「いのちは誰のものか」と考えたことがありますか。そんなことは問われたことがないかもしれません。もし改めて「いのちは誰のものか」と問われれば、「自分のものに決まっている」と答えるでしょう。それでは、もしいのちが私たちのものであるならば、私の思い通りになってほしいはずでしょう。自分のものではないということは、自分の思い通りになって初めて自分のものと言えると思っています。お母さんに買ってもらった鉛筆を友だちが持って行ってしまったら「それは僕のだから返してくれ」と言うでしょう。ところが、私たちの身と心は果たして自分の思い通りになっているでしょうか。

いのちの名人でした。その白鳥を目ざとく見つけると、持っていた矢で射落してしまいました。羽に突き刺さって飛ぶ力を失った白鳥は、ハタハタと森へ落ちて行きました。すると、お釈迦さまは白鳥が落ちたと思うところに一目散に走って行って、傷ついている白鳥をみつけると、そのまま家へ持って帰ってしまっただけです。そして、自分で介抱してしまいました。



すると、ダイバダッタがやって来て、「あの白鳥は自分の弓矢で射落したのだから自分のものだ、私に返してくれ」というわけです。お釈迦さまは、「今、自分が介抱しているから私のものだ、返すわけにはいかない」と言われまじた。二人の少年が一羽の白鳥を奪い合

子どもたちと聞く法話

いました。二人で口論していても立ちがきませんので、村の人に聞いてもらうことにしました。

白鳥はお釈迦さまのものか、ダイバダッタのものか。

ダイバダッタは自分の弓矢で射落したのだから自分のものだと言張ります。お釈迦さまは、今自分が介抱しているのだから自分のものだと言張ります。村の人に聞いたら、それはダイバダッタのものだという人が半分。いやそれはお釈迦さまのものだという人が半分。半々に分かれてしまったのです。そこで、最後に村の長老に聞くことにしました。長老は、こう言いました。

「すべていのちは、それを愛そう、愛そうとする者のものであって、傷つけよう、傷つけようとする者のものではない」と。

その長老のことがあまりにも厳粛だったので、一同は頭を垂れました。

こんな話がインドの古い物語に残されています。

さて、ここで「いのちは誰のものか」ということの一つの結論が出てきました。皆さんは、「いのちは自分のものか」と思っておられるかもしれません。しかし、「いのちは誰のものか」と問われれば、「いのちは、愛そう、愛そうとする者のものであって、傷つけよう、傷つけようとする者のものではない」と言われる。

蓮ちゃん通信 その② 予告 2020年1月20日(月)～21日(火) 【京都開催】 「ひとりからはじめる子ども会」講習会

参加者のお寺の状況をスタッフと一緒に考える、子ども会の実践について体験しながら学んでみませんか? 「お寺で子ども会をはじめたい!」そんな皆さんのご参加、お待ちしております!!

【会場】しんらん交流館・京都教務所
【定員】20名(12月25日※申込締切)

※募集要項は、真宗11月号に掲載予定です。



ところが、私たちの心の中には、愛そうとする自分と、傷つけようとする自分の両方を併せ持っているわけです。私が私のいのちを愛そうとする気持ちを持ちながら、私が私のいのちを粗末にする。生まれてこなければ良かった、愚痴や、不平や、不満を言っていて暮らしている。そんな私の生き方。両方を備えているのが、実は私の生き方ではないでしょうか。

それでも、仏さまは常に私たちのいのちを愛してくださるのです。

東本願寺同朋会館の 子ども精進カレー

ひとりからはじめる
イベントレシピ



毎年11月23日開催の「子ども報恩講のつどい」で好評のレシピを特別大公開!!
お寺での子ども会行事などでぜひ味わってみてくださいね。

子ども精進カレー(15人分)

具材



ジャガイモ
800g



タマネギ
1kg



ニンジン
180g



マッシュルーム
100g

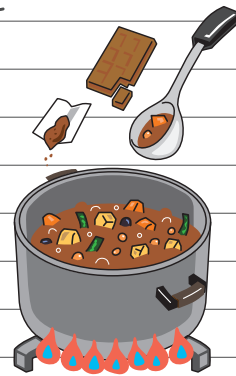


その他

おあげ、水煮大豆、ひじき、しいたけなどのアレンジもOK!!

調味料

水	2400cc
顆粒だし	30g
赤ワイン	30cc
酒	30cc
おろし生姜	8g
おろしにんにく	4g
はちみつ	40g
すりおろしりんご	1/4個
ザラメ砂糖	30g
塩	5g
こしょう	少々
みりん	18cc
濃口醤油	18cc
ウスターソース	10cc
ケチャップ	50g
カレー粉	5g
カレールー(甘口) お好みで2種類	450~500g
レモン汁(最後に入れる)	1/2個



食前のことば

みひかりのもと われいまいわいに
このきよきしよくをうく いただきます

食後のことば

われいま このきよきしよくをおわりて
こころゆたかにちからみにみつ
ごちそうさまでした

ご本尊の前で「仏事」を勤めたあとに、皆でいただく食事のことを「お齋」といいます。子ども会も立派な「仏事」です。子どもたちと一緒に「お齋」をいただくにあたり、「食前・食後のことば」を唱和してみませんか?



「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が遺してくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします！！

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

ねんじゅ お念珠

お念珠のはじまり

今から約2500年前におしゃかさまが仏教のみ教えを説かれた時代に、お念珠の起源があります。インドに難陀国なんたこくという小さな国がありました。波瑠璃はるりという王様の時代に国が乱れ、病気が流行り、人々は大変苦しい生活をしていました。やさしい王様は何とかしたいと悩み苦しみ、考えた末、おしゃかさまに相談されました。おしゃかさまは、王様に「それでは、木の実に穴をあけて、糸を通しなさい。それをいつも身に付けて、悩ましく乱れるところを静めて、一心に南無仏・南無法・南無僧と称えなさい。」と

教えられました。これがお念珠のはじまりと伝えられています。

らいはい 礼拝とお念珠

お寺やお家のお内仏にお参りするときは、お念珠の輪に両手を通して合掌がっしょうします。み仏さまにご挨拶するとき、こころ静かにみ仏さまのお名前「南無阿弥陀仏なむあみだぶつ」とお呼びしてご挨拶しましょう。

このことは、食事の前に手洗いをして清潔にして、「食前のことば」を唱和して食事をはじめるのに似ていますね。

出典：幡谷淳信「一月教案」礼拝
『児童と宗教』3巻1号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さがえ なつふみ
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

「お念珠」がどうして使われはじめたのか知ってるかい。お念珠が誕生した物語を知ると、お念珠の大切さがわかるとおもう。そして、お念珠の誕生の物語を知ると、おしゃかさまの説かれたお言葉が聞こえるようだね。もっと、身近におしゃかさまを感じるといいね。

コーナーの活用例

- ① 本文「お念珠」をそのまま覚えて話す。または、ご自身の表現で話す。
 - ② プリントして配布し、朗読する。
- 上記以外にもその場に合わせてご活用ください！

本文のPDFデータは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎私は、子ども会で「パピコ」と子どもたちに呼んでもらっています。この夏も、子どもたちとお互いの名前を呼びあえる時をもつことができました。夏だけでなく、一年を通してそんな場があることに感謝しながら、時を過ごしていきたいと思います。

(青少年センター主事 高月沙生子)

◎食事を誰かと共にできるのは、どうしてでしょう？そこに、少しでも心を開ける相手がいれば、信頼できる場だからではないでしょうか。子ども報恩講などの「お斎」での食事や語り合いが、子どもたちにとって、身体だけでなく、心の栄養にもなればいいと思います。

(編集長 池崎方子)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。

<https://www.facebook.com/oym.hitorikara/>

※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

●真宗大谷派 (東本願寺) 青少年センター TEL.075-354-3440

青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!